

お寺にある素敵なもの、発信していきたい

YUJI

2012年 春

平成24年4月15日発行（第13号）

ユージュ

「YUJ」とは「瑜伽」とも書き、サンスクリット語で、「結ぶ、繋ぐ」を意味します。

YUJを手にとった方とお寺が良い縁で結ばれますよう。

<http://www.kagawa-konzouji.or.jp/yuj@kagawa-konzouji.or.jp>



地獄の風景
地獄には等活、黒縄、衆合、
叫喚、大叫喚、焦熱、大焦熱、
無間の八大地獄があり、いずれもこの世界の地下深くにある。
まず初めに等活地獄があり、
この罪人は常に相手を傷つけようという思いを抱いている。

往生要集

平安期のベストセラー
と日本浄土教の夜明け

たまたま相手に出会うと、ちょうど獵師が鹿を見つけたようなもので、鉄の爪でもって、お互いに掴み裂いてしまう。ついに共に血も肉も果て、ただ骨だけが残るといふ有様である。
また地獄には鬼もいて、罪人を見つけると手に持った鉄の杖や鉄の棒で、罪人の頭から足の先に至るまで、余す所無く皆打ち尽くしてしまう。そのため、罪人の身体は砂の塊のように破り砕かれてしまう。また非常に鋭い刀を持つ地獄の鬼は、まるで料理人が肉や魚を捌くかのようになり、罪人の身体をスタスタに切り裂いてしまう。

このようにして罪人たちは息絶えてしまうのだが、どこからともなく涼しい風が吹くと、罪人の身体はもとのように戻り、たちまち息を吹き返して、また同じように苦しみを受けることになるのである。
はたまた、どこからか「罪人どもよ、再び等しく生きかえれ」という声がすると、地獄の鬼が鉄の又で地面を打って「生きかえれ、生きかえれ」と唱えるともいわれている。
この等活地獄には、無益な殺生を行ったものが墜ち、数十億年を一期として苦しみ続けるといわれている。



阿弥陀仏立像（伝 慈覚大師作）

『往生要集』と源信

以上は八大地獄のひとつ「等活地獄」の様子ですが、この非常に恐ろしい地獄の描写は、平安中期の天台僧源信の著作『往生要集』に拠ります。

源信が『往生要集』を撰述したのは永観三年（九八五）四月であり、僧のみならず貴族や文官など当時の知識層によって競って書写され読まれました。とりわけその精緻な地獄や極楽浄土の描写は、後の文学や美術に深い影響を及ぼしました。

このようにいいますと『往生要集』は文学作品のように思われますが、その内容は極楽浄土へ往生する方法を説いた念仏実践書です。『往生要集』はいかにして誕生したのでしようか。著者である源信の生涯とともにおつてみたいと思います。

天慶五年（九四二）、源信は大和国葛城下郡当麻郷（奈良県

葛城市たいま當麻）に生まれました。父は卜部正親、母は清原氏の出であり、二人は一男四女をもうけました。

幼いころから聡明で仏教に対する信仰が深かった源信は、十代前半で比叡山に登り、当時脚光を浴び始めていた横川の良源の門を叩きました。良源は宗学の高揚を第一と考え、僧侶の育成に力を注ぎ、良源の庇護の下、源信は少年期から青年期の日々

のすべてを天台教学の研鑽に費やすことができました。天延元年（九七三）三十二歳になった源信は、当時天台学僧の登竜門であった広学こうがく堅義けんぎの受験生に選ばれ、見事及第します。師良源の定めた道を順調に歩み始めた源信は、天元三年（九八〇）九月三日、良源の悲願であった延暦寺根本中堂供養大法会において、右方錫杖衆の頭役という大役を果たしました。

すべてが順風満帆であった源

信ですが、この法会を最期に、華やかな舞台から消えてしまします。何があつたのでしょうか。当時「智弁群をぬく」と評されていた源信は、ある時、朝廷からの招きで法会に出席しました。その法会において賜りものがあり、源信は当麻の母のためにと贈りました。それを受けた源信の母は、涙ながらに源信を諫めたといひます。

「あなたが贈ってくれました品、ありがたく思います。しかし私が願うのは、あなたが高名な僧として華やかに振る舞うことではなく、仏門を修め世を救う聖人となることです。」

この手紙を受けた源信は、涙を流し「仰せに随い、きつと聖人になりましよう」と誓つたことでしょう。

慶滋保胤と勸学会

源信の隠遁より、やがて『往生要集』を完成させるまでに、

源信と浄土信仰の関わりで欠かせない人物が慶滋保胤です。当時、保胤は「勸学会」と呼ばれる念仏結社を主催していました。

勸学会は康保元年（九六四）天台の学僧と大学紀伝道の学生各二十名ずつが一堂に集い、『法華経』の講演、念仏、経の一句を題に詩会を催したのが始まりで、毎年三月と九月の十五日に定期的に開催されていました。

勸学会のメンバーは十四日の夕に会場で合流し、十五日の朝『法華経』を講じ、夕には阿弥陀仏を念じ、その後は夜を徹して仏法を讃える詩をつくり寺に納めていました。

ここで行われていた念仏とは、「南無阿弥陀仏」と名号を称える称名念仏で、まるで「南無阿弥陀仏」の名号が極楽浄土へ往生できる呪文であるかのように称え続ける念仏行でした。

しかし、天台の念仏とは「仏の姿を心に深く念じ仏と一体と

なること」を目指した観想念仏
であり、称名念仏は観想の手段
でしかなく、極楽往生はあくま
で観想念仏によって実現されな
ければなりません。

勸学会と接近した源信が、メ
ンバーの念仏往生を模索する真
摯な姿勢に共鳴しつつも、理論
の欠いた念仏行を憂慮したこと
でしょう。こうして、念仏者の
理論のよりどころとして、『往
生要集』が誕生するのです。

二十五三昧会

『往生要集』がひとたび世に
現れるや、浄土教家や念仏者の
間に空前の反響を呼びました。
従来の呪術的な称名念仏に対し、
天台教学に裏付けされた源信の
念仏は、極楽往生のための念仏
の意義を明確に理論化体系化し
たものでした。

その念仏理論を實踐しようと、
『往生要集』完成の翌寛和二年
(九八六)五月には、念仏結社

「二十五三昧会」が結成されま
す。また『往生要集』には極楽往

生できたものは、縁のある人を
極楽浄土へ導くことができる

と説かれており、極楽往生はわが
身のみではなく、結縁衆のため

でもありました。後に『往生要
集』を宋に送る機会を得た源信

は、その書状の中で次のように
述べています。

「…それ一天の下、一法の中、
みな四部の衆（仏弟子）なり。

…みなわれと共に極楽に往生す
るの縁を結ばん」

横川の僧都

『往生要集』は宋でも高い評
価を受け、源信の意に反して名
声を高める結果となりましたが、
その後も源信は地位や榮譽とは
無縁の生涯を送りました。そん
な源信を人々はかえって尊び、
その居所である恵心院にちなん
で恵心僧都と呼びました。

紫式部『源氏物語』第五十三

十遍「南無阿弥陀仏」と称える

ものです。

また『往生要集』には極楽往

生できたものは、縁のある人を

極楽浄土へ導くことができる

と説かれており、極楽往生はわが

身のみではなく、結縁衆のため

でもありました。後に『往生要
集』を宋に送る機会を得た源信

は、その書状の中で次のように
述べています。

「…それ一天の下、一法の中、
みな四部の衆（仏弟子）なり。

…みなわれと共に極楽に往生す
るの縁を結ばん」

帖「手習い」に「横川になにがし
の僧都とかいひて、いと尊き人
住みけり」とあるのは、源信が
モデルとされています。

後に浄土宗の祖となる法然や
親鸞により、『往生要集』は解
釈が加えられ、新たな念仏の時
代に入ります。

法然、親鸞は山を下り民衆の
ための極楽往生を模索しました。

「一天の下、一法の中、みな仏
弟子なり。共に極楽に往生する
の縁を結ばん。」といった源信
の精神は、ここにおいて結実し、
今も多くの人々を極楽往生へと
導いているのだと思います。

『往生要集』は宋でも高い評
価を受け、源信の意に反して名
声を高める結果となりましたが、
その後も源信は地位や榮譽とは
無縁の生涯を送りました。そん
な源信を人々はかえって尊び、
その居所である恵心院にちなん
で恵心僧都と呼びました。

紫式部『源氏物語』第五十三

十遍「南無阿弥陀仏」と称える

ものです。

また『往生要集』には極楽往

生できたものは、縁のある人を

極楽浄土へ導くことができる

と説かれており、極楽往生はわが

身のみではなく、結縁衆のため

でもありました。後に『往生要
集』を宋に送る機会を得た源信

は、その書状の中で次のように
述べています。

「…それ一天の下、一法の中、
みな四部の衆（仏弟子）なり。

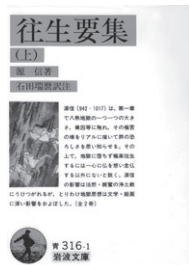
…みなわれと共に極楽に往生す
るの縁を結ばん」

横川の僧都

『往生要集』は宋でも高い評
価を受け、源信の意に反して名
声を高める結果となりましたが、
その後も源信は地位や榮譽とは
無縁の生涯を送りました。そん
な源信を人々はかえって尊び、
その居所である恵心院にちなん
で恵心僧都と呼びました。

紫式部『源氏物語』第五十三

十遍「南無阿弥陀仏」と称える



『往生要集 (上)』

石田瑞麿訳注 岩波文庫



『人物叢書 源信』

速水侑 吉川弘文館



今回は、清風手前せいふうでまえというお手前のお心から思うことを。

清風手前は、清風棚という棚からお道具を取り出して、お手前をすすめます。そのお心は「誰が家か清風明月無からん」といいます。私なりに意訳すると、「誰の家にも、清らかな風や明るい月など自然の恵みは平等に与えられているものだ。日常生活の中でも、何事も平等に与えられているので、偏見、ねたみを持たないよう過ごすことが大切である」となります。

どのお手前もそうなのですが、日常を離れて作法に集中してい

ると、まだまだ初心者の私でも、普段考えないことに気持ちが届きます。そして、一定の作法を終え、お心や意訳を、言葉を選びながらゆっくり口に出してみると、日常で忘れていた心のゆとりを感じられるものです。

この清風手前で、棚からお道具の出し入れをしながら平等ということを考えて、いかに日常で感情に流されていることが多いか、と反省させられます。また、そのような時間が持てることが、とてもありがたいと思わずにはいられません。

さて、前回お知らせしました施茶せちやの日時が、六月三日（日）に決定しました。三井古流のお煎茶にご興味のある方、ぜひ足をお運びください。

今回のレシピは、簡単に作れる蒸しパンです。大人はもちろん、小さいお子様も召し上がれますので、ぜひ作って家族みんなでお召し上がりください。

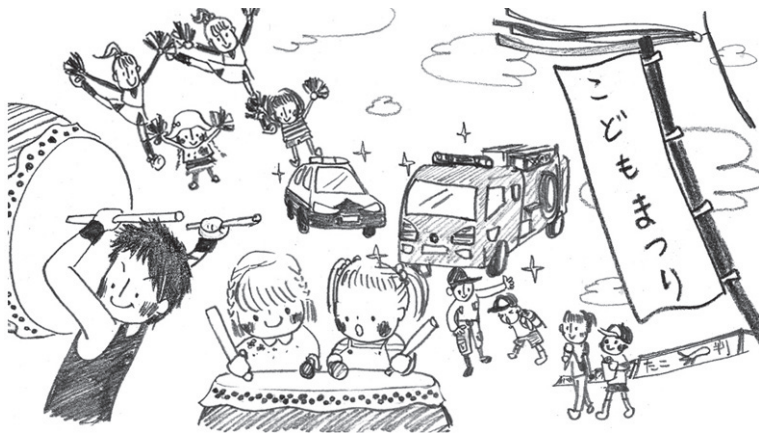


recipe.10 バナナとあんずの蒸しパン

【作り方】 1. 薄力粉と重曹をふるっておく。バナナをフォークの背でつぶしておく。2. Aをよくかき混ぜ1を加えてさっくり混ぜる。3. ある程度混ぜたらバナナを加えて混ぜる。4. アルミカップ6分くらいまで流す。5. 蒸し器で10～15分くらい蒸す。竹ぐしについて先に何も付いていなければ出来上がり。

【材料／アルミカップ10個】

薄力粉…約150g、重曹…小さじ1、バナナ…1/2本、A【きび砂糖…大さじ1、あんずジャム…大さじ1と1/2、塩…ひとつまみ、植物油…大さじ1/2、豆乳…60cc、水…60cc】



濱口育弘（文）
 濱口緑研究所代表。除草剤などで弱っていた「乃木將軍妻返しの松」を独自の研究によって元気な姿に戻す。連絡は、
 〒763-0065 香川県丸亀市塩屋町 2-16-17

Denny Horimizu（絵）
 生まれ育ちは金蔵寺。金倉寺にて月に1度、EmaFaceを展開。似顔絵、ウェルカムボード他、ご要望があれば承っています。
<http://www.moridukuri.cho-chin.com/>

—今日は「こどもまつり」の日。お寺の様子もいつもと違って、子供たちの笑顔に溢れています。ええなあ、実にええ。それぞれの親子にも笑みがこぼれよる。境内では高校生による太鼓やチアリーディング、演劇にパトカー、消防車などもあり、子供たちは未来を夢みて目を輝かせています。

「いつもは恐い和尚も今日はニコニコと愛想がええなあ。人生楽々の者はおらん。それを乗り越える力がニコニコなんや。お父さんお母さんからニコニコの遺伝子を子供に伝えることが家内安全の秘訣なんや。」

和尚、いうなあ。理論たくましくありアホを演じきる。これも人生の生き方かいな。

ゴロハチ、あんたはどっかで拾ってきた天の邪鬼を一生背負って生きてくつもりかいな。

「こいつらとの付き合ひももう長いきん。和尚、こいつらもよくよく付き合ひよると、一人一人訴えてきよるんで。」

お前の夢は「自然再生」やろ、ゴロハチ。一があるきん、百も千もあるんやで。一をせんと何も始まらんで。

本来防波堤やった自然が環境破壊ゆー大津波に飲まれてしまった。自然の防波堤やった海岸の森もバタバタと枯れていく。その最大の原因が地球温暖化や。ワシのーに意味あるんやろか。

ゴロハチ、あんたの研究は遺伝子まで進んでるそうやが、肝心のお前さんの遺伝子はどやや。ニコニコの遺伝子を伝えとるか。それが自然再生への一歩とちゃうか。

遺伝子に傷がつくことで、奇形や突然変異（ミュータント）が生じるんや。ゴロハチのニコニコの遺伝子には、どっかに傷がついてしもうたんや。

ワシの研究は小さい小さい、遺伝子を保護することやのに、自分のニコニコの遺伝子の保護には気づいとらんかった。

ニコニコの遺伝子には心の平安が必要や。心の平安のためには、緑が生き生きとした自然環境が必要やで、ゴロハチ。

寺の役目はニコニコの遺伝子を作ること、そしてそのニコニコの遺伝子をもたらししてくれる自然に感謝することを伝えることや。お前さんはどやや。

「そうや、ワシがやつとる樹木再生は一本単位かも知れんが、再生に成功した技術は他の樹木にも応用できる。これがワシのニコニコの遺伝子を伝えることやがな。」

ゴロハチの言うことを信じてもらえるかは分らんや。なんせ、ワシを一生背負つとるんやきに。

お前さんたちにも協力してもらわなかいんで。

—ニコニコの遺伝子、みなさんの元にも届きましたか？

気になる？

気になる！

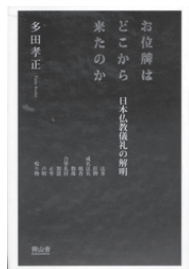


その-12、数珠

仏具のうち、みなさんが普段の生活で触れることの多いものは、数珠ではないでしょうか。

仏教における数珠は、インドから中国に伝わって数を数える道具として普及したのが始まりであるといわれています。日本に入ってきたのは、仏教が伝わった聖徳太子の頃、素朴な形で入ってきたもののようです。奈良時代に入って、中国文化を受け入れるようになると、仏教は華麗な有り様を見せ、数珠の材質も多様になりました。

儀式用に水晶で作られた数珠は、装束数珠といわれ、所作で



『お位牌はどこから来たのか』多田孝正 興山舎

音をたてることで仏を念じるより所となつていきます。また、天台宗の修験者たちは、念珠を擦つて音を出すことにより、危険な行に潜む魔をよける術としていきます。このように、数珠に音を求めるのは、日本人独特の感性によるものかもしれません。また、数珠が仏教のパワーそのものを象徴する存在ともなっています。例えば、貫主が信者さんに数珠を当てて加持を行ったり、天台宗の回峰行を行ったり行者の加持を受ける行為は、そのパワーが、数珠を通して信者に流入することを表す例であり、数珠は既に、単なる道具の一つではないことがわかります。

各宗各派の考え方により、様々な用途に使われているのが数珠の特徴といえますね。



その-12、円珍さん

博多に着いた円珍さん一行は、再び城山の四王院に滞在し、帰朝の奏上をしました。翌天安三年（八五九）正月十六日、宮中に召された円珍さんは、長安で刁慶に凶画させた大曼荼羅像二幅を献上し、持ち帰った経論千余巻を中務省に納めて、比叡山の山王院へと戻りました。

すると円珍さんの元に一人の老翁が現れ、「中務省は大切な経論を納めるところではない。私が案内するから着いてきなさい。」と言います。ところが以前円珍さんに入唐を勧めた山王権現が現れ、「経典は山王院に置くほうがよい。」と割って入りましたが、その声が消えぬうちに、「いや、ここは将来必ず争いが起こる。南へ数十丁離れたところに良い場所がある。」と老翁が反論しました。老翁と山王権現の争いは続きましたが、「とにかく老翁がいう場所に皆で行ってみよう」ということになりました。



『智証大師 円珍』小林隆彰 東方出版

さて、老翁に導かれるまま山を下り辿り着いた場所が現在の園城寺（三井寺）でありました。円珍さんは園城寺を再建し、堂宇（現在の唐院）を建立して、千余巻の経論を納めました。

七ヶ所まいりのご案内

香川県の中讃地域を中心に、「七ヶ所まいり」というものがあります。

これは四国霊場第七十一番弥谷寺から第七十七番道隆寺までの七寺院を一日でお参りすると、四国霊場八十八ヶ所をお参りしたことに同じだけの功德があるというもの。

寛政十二年（一八〇〇）発刊の絵図『四国八十八番寺社名勝』には、「足よはき人は此印七り七ヶ所をめぐれば 四国巡拜にじゅんずといふ」と紹介されています。

来る五月十九日（土）、七ヶ所寺院主催による七ヶ所まいりウォーキングが行われます。

全行程で約十六キロ、急な登りや下りもなく、ほとんどが平地の移動のため、歩き遍路、ウォーキングともに初めての方でも安心です。また、霊場寺院

僧侶や霊場先達（せんだつ）が先導しますので、霊場まいりが初めての方でも安心して参拝いただけるかと思えます。健康のためのウォーキング、また歩き遍路のお試しとして最適のコースかと思えます。どうぞお気軽にご参加ください。

参加希望の方は、金倉寺本堂または電話（〇八七七―六二一〇八四五）で、五月十三日（日）までにお申し込みください。

日時 五月十九日（土）

行程 弥谷寺→道隆寺

時間 午前七時三十分

弥谷寺大師堂集合

費用 一三〇〇円（実費）

保険、昼食、交通費

服装 自由（参拝に適した服装）

持物 飲物、雨具、参拝用品など

※お帰りの「道隆寺→弥谷寺」

はタクシーを利用します

※納経、御影など希望の方は

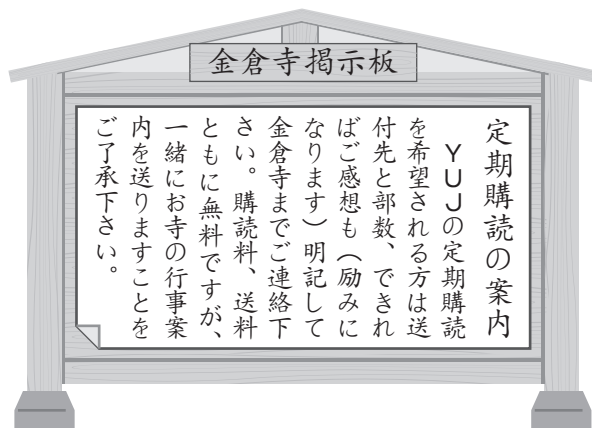
事前にお申し出ください

訶利帝母例祭のご案内

本年も恒例の訶利帝母例祭（かりていもれいさい）を五月十二日（土）、十三日（日）に開催いたします。

金倉寺の法要は、十二日午後三時からの人形供養、十三日午後十二時からの大般若転読会となっております。

また境内ではこどもまつりを開催しています。みなさまのご参拝お待ちしております。



■編集後記

哲済 『往生要集』の中で描

写されている地獄の風景は本当に恐ろしいもの。僕も子供のころ、

恐いながらも地獄の絵本をめぐって「悪いことせんとこ」って思ったもんです。最近の子供は地獄を知らないみたいやね。

香祥

この前手に入れた『地獄』の絵本、私も小さいときに見て、夜恐くてトイレに行けなくなつた記憶があるわ。

哲済

風濤社の『地獄』ね。こないだ夜一人で読んでたけど、夢見もせんかった。悪い大人になつてもたんかな：

平成二十四年四月十五日発行

編集・発行 金倉寺

発行人 村上法照

お問い合わせは

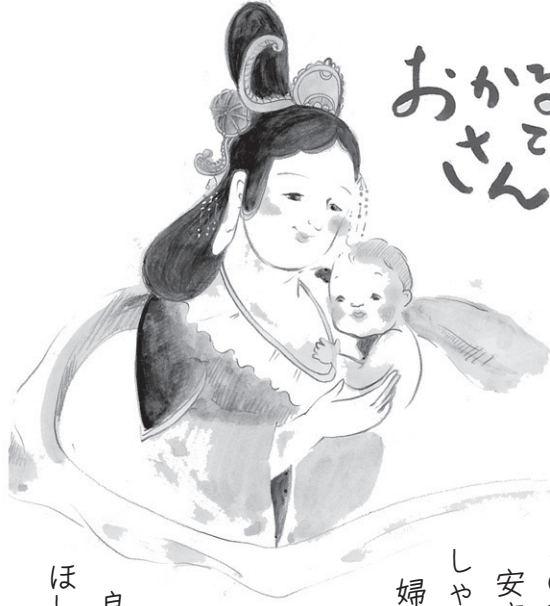
千七六五―〇〇三―

香川県善通寺市金蔵寺町一一六〇

TEL〇八七七―六二一〇八四五

yuj@kagawa-konzouji.or.jp

おかるさん



最近、夫婦間の愛情に関するニュースを見ました。それは、「配偶者を愛していると実感する」割合を、妊娠中から子どもが2歳の時まで継続して調べたもの。それによると、妊娠中は、夫も妻も「愛していると実感する」のは約七割で、差はありませんでした。ところが、子供が二歳になるとそう感じる妻の割合は三割と大きく減少、夫の方は五割と妻に比べて減少幅は緩やかでした。

原因は、夫が仕事に忙しく、育児に苦労する妻をサポートできないため、妻からの愛情の低下につながっているためとか。心当たりの方もいらつしやるのではないでしょうか。

安産、子授祈願にいらつしやるご夫婦は、どのご夫婦もこれから共に支え合おうという意思が伝わり、とてもほほえましく感じます。どうか、その気持ちをいつまでも忘れず、仲の良いご夫婦であり続けてほしいと思います。



日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5		7	8	9
10	11	12	13	14	15	
17		19	20	21	22	23
24	25	26	27		29	

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11		13	14
15		17	18	19	20	21
22	23		25	26	27	
29	30	31				

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	
8	9	10	11	12	13	14
15		17	18		20	21
22	23	24	25	26	27	
29	30					

日	月	火	水	木	金	土
			2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
	14	15		17	18	25
20	21	22	23	24		26
27		29	30	31		

阿利帝母縁日 毎月16日午前10時から午後2時まで阿利帝堂内に参拝できます

不動尊護摩供 毎月28日午前11時から本堂にて護摩祈願を行います

着帯戌の日 戌の日の午前11時と午後2時より安産祈願を行います(行事などによる変更あり)

※5月13日(日)は大祭のため午前9時と午後3時に変更します
5月25日(金)は所用のため安産祈願はお休みします